

平成19年11月10日

5年生保護者様

広島市立口田小学校長 益田 幸一

### 「基礎・基本」定着状況調査報告

小・中学生の基礎・基本の学力や生活習慣等の定着状況を調べる目的で、6月12日に県内一斉に行われた「基礎・基本」定着状況調査の結果がまとまりました。小学校では5年生を対象に「国語」「算数」「生活と学習に関する意識・実態」調査が実施されました。ここで、本校の実態についてご報告いたします。

#### (1) 本校・広島県・広島市の「国語」「算数」の平均通過率(%)

	領域	本校	広島県	広島市
国	聞くこと	80.0	78.5	77.1
	書くこと	50.4	40.6	37.1
	読むこと	66.2	67.0	67.8
語	言語事項	68.3	65.2	64.9
	平均	66.7	64.2	63.7

	領域	本校	広島県	広島市
算	数と計算	83.3	80.9	80.4
	量と測定	76.1	70.6	72.5
	図形	75.8	69.8	68.6
数	数量関係	80.2	77.2	77.4
	平均	79.5	75.6	75.8

#### (2) 本校の実態

##### 国語

国語	聞くこと	話の要点を聞き取ることはできるが、聞いたことの中から必要なことを選択する力は十分ではない。
	書くこと	書く必要のある事柄を収集・選択することはよくできるが、段落相互の関係を考え書くことができていない。
	読むこと	場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像しながら読むことは概ねできているが、段落相互の関係を考え、中心となる文や語をとらえて、文章を正しく読むことが苦手である。
	言語事項	簡単な単語についてローマ字では書くことはできるが、bとdのように形が似通っているものの区別がきちんとできていない。

#### 【指導の重点】

「聞くこと」においては、要点をのがさずメモを取る場面づくりを心がけ、その中の事柄を必要に応じて取捨選択する活動を行う。

「書くこと」「読むこと」においては、文章のキーワードを捉えて、まとまりを意識する学習を多く持つ。また、日記や作文において、自分の考えを簡潔に表現したり、段落を意識して書いたりする機会を多く持ち、よりよい例を示しながら指導する。

「言語事項」においては、ローマ字の学習を適宜行っていく。

#### 算数

算数	数と計算	1000を単位として数の大きさをとらえることや小数のたし算は十分にできている。3位数×1位数や分数の大きさを問う問題を苦手としている。
	量と測定	面積を任意単位のいくつ分と考えて比較するという面積についての基本概念が理解できている。長さや重さの単位については理解できていたが、かさの単位については理解が不十分である。
	図形	コンパスを用いて長さを移し、比較することや二等辺三角形の作図はできている。直方体の構成を考えることは十分でない。
	数量関係	四則計算や( )のある計算はよくできていた。折れ線グラフの傾きが表す変化の大きさの理解が十分でない。

#### 【指導の重点】

「数と計算」において、かけ算の筆算では、繰り上がりの書き方を含めて筆算の仕方を定着させる反復練習を行っていく。

「量と測定」においては、水の量は重さで比べるのではなく、かさで比べることを意識づける。また、生活体験と併せて様々な単位についての理解を深めていく。

「図形」においては、具体物を通して立体の構成について理解を深めていく。

「数量関係」においては、グラフを読み取る学習を他教科においても多く取り入れていく。

生活と学習に関わる意識・実態

生活と学習に関する意識・実態	生活習慣	朝食をきちんととり,しっかり運動したり睡眠をとったりしている。平日,家庭でゲームをしたりテレビ(ビデオ)を見たりする時間が長く(4時間以上が18.9%),読書をする時間は短い(1ヶ月に3冊以下が50%)。
	人間関係	家族関係や友だち関係は良好である。
	自己実現力	将来の夢や目標をもっている児童が多い。
	自己効力感	自分の良さが周りに認められていると感じている。
	論理的思考力	理由を考えたり,見たことや考えたことを人に順序よく伝えたりすることができる。
	コミュニケーション能力	自分と違う意見も受け入れながら,自分の考えを話したり,自分の気持ちを言葉で伝えたりすることができると思っている児童が多い。
	学習動機	「学校へ行くのが楽しい」「わかると楽しい」という気持ちをもって学習に取り組んでいる。
	学習習慣	学校で習ったことを生かしていこうという気持ちをもっているが,主体的に計画的に勉強する習慣が付いていない児童が多い。
ことばの教育	大切,必要だと思うことをノートに書いている。相手や目的に応じた話し方をしようとしている。しかし,図書館の本や資料などを利用して勉強しようとする姿勢にかけ。	
家庭での学習習慣	平日の家庭学習が30分以上という児童がほとんどだが,30分以下の児童が15%いる。	

全体的に,人間関係は家庭でも学校でも良好で,学校へ行くのが楽しいと感じている児童が多い。将来についての夢や希望も持っている。これまで通り自分の存在場所が学級,学校にあることを感じられるような学級,学校集団作りにつとめていく。自分の夢や目標を実現しようとすることの意義やすばらしさを感じさせていくために,スモールステップの目標を設定し,できたという達成感をより多く経験させていく。さらに肯定的な評価となるような声かけをしていく。

学習に対する意欲が高く,学習が生活に役立つことを理解している。今後は,「努力をしたことでできた」という達成感を感じさせ,分からないことをも粘り強く取り組めるよう指導していく。そのためには,児童相互で教えたり考えを出し合ったりするグループ活動をあらゆる授業の中で計画的に行っていきたい。

読書量が学力に大きく影響するので,引き続き読書時間を確保していきたい。また,読書の本の選び方の指導や図書ボランティアや教師による読み聞かせを行い,幅広く読書を楽しむようにしていきたい。

自主的,計画的に学習を進めたりする態度や生活習慣については,家庭と連携しながら身につけさせていきたい。